

令和 3 年 6 月 23 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02049

研究課題名(和文)中国系ディアスポラにおける宗教圏の創出と共生関係の比較研究

研究課題名(英文)Chinese Diaspora and Religious Coexistence in Asia and Beyond

研究代表者

王 柳蘭 (WANG-KANDA, Liulan)

同志社大学・グローバル地域文化学部・准教授

研究者番号：50378824

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中国系ディアスポラを対象に、トランスナショナルな人の移動があらたな地域の創出にどのような影響をあたるのかについて、東南アジアや日本国内における諸事例を通して人類学的に検討することを目的とした。研究成果は、タイにおける中国系ムスリム移民が多民族と交渉しながら地域のなかで関係性を築きながら根づいていくプロセスをライフヒストリーを中心に調査を行なった。日本では、神戸にある華人キリスト教徒のコミュニティの形成過程を教会の設立と信徒の相互交友の歴史的過程から跡付けていた。それぞれの成果については、国内外のワークショップや会議において発表し、その成果を一部出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、祖国や故郷を離れた越境者を対象に、主として宗教のもつ社会的役割とコミュニティの創出や地域社会への影響を人類学的視点から明らかにした点にある。また、中国系ディアスポラにおける移動にもとづく共同性が、どのような文化的・社会的装置によって継承されているのか、その生成原理を二つの宗教(キリスト教とイスラーム)を通して比較できた。従属的な立場に置かれがちな越境者への理解を、当事者の自律性に着目して、具体的にフィールドの事例より明らかにすることで、越境者をめぐる多民族の共生社会にむけた学術的提言をすることにつながった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to anthropologically examine how transnational migration affects the creation of new regions for Chinese diasporas through various cases in Southeast Asia and Japan. The research results investigated the process by which Chinese Muslim immigrants in Thailand take root while negotiating with multi-ethnic groups and building relationships within the region, focusing on life history. In Japan, the process of forming a Chinese Christian community in Kobe was traced from the historical process of the establishment of the church and the mutual friendship of the believers. Each achievement was announced at domestic and overseas workshops and conferences, and some of the achievements were published.

研究分野：文化人類学

キーワード：中国系ディアスポラ イスラーム キリスト教 東アジア、東南アジア 共生関係

1. 研究開始当初の背景

移民、難民を含む越境現象は、ネットワークを担う多様なアクターによる人、モノ、金や情報のフロー、地域間の連関と多元的な相互交渉と民族的文化的、宗教的接触を伴ったインターアクティブな相互作用を伴う。近年では、脱国家、脱領域性に着眼したディアスポラ研究が盛んになり、かつ「人間の安全保障 human security」という概念によって、国家単位ではなく、一人ひとりの「人間」への尊厳に立脚した地域理解と人間開発の必要性が唱えられ、政治主導のアプローチのみならず、民族や文化・宗教的側面に着眼した移民・難民研究が敷衍されつつある。

しかし、越境者が地域共生に果たす役割、越境がホストや送出国との間で宗教・民族文化にもとづいた多元的な交渉とネットワークを紡ぎだし、新たな共同性を再構築していくという越境者自身の目線からみた自律的なメカニズムは十分に研究されてきたとは言いがたい。

申請者は国家と社会・個人を取り結ぶ越境者の経験に基礎づけられた文化的、宗教的、歴史的なネットワークにもとづいて主観的に生成される社会空間を「マイクロ・リージョン」と概念化した〔王 2010、「特集一越境と地域空間：マイクロ・リージョンをとらえる」『地域研究』〕。また、申請者は共同研究を通して、同一民族内においても、アクターの果たす役割、宗教の相違によって地域、国境を越えたネットワークには多様性がみられる点を指摘した〔王 2014、「多元的結合から共生を考える」『下からの共生を問う―複相化する地域への視座』〕。とりわけ、申請者は、北タイ国境において、雲南系ムスリムが漢人との相互交渉を通じた共生関係により、中国や台湾といった中華世界と接合する華人性を表出する一方で、イスラーム意識の再活性化を通して汎民族的な地域社会を再構築している点を明らかにした〔王 2011、『越境を生きる雲南系ムスリム』〕。

2. 研究の目的

本研究は、グローバル化が進むアジアにおいて、中国系ディアスポラを対象に宗教（イスラームとキリスト教）と民族文化に着目し、トランスナショナルなネットワークの多元性と地域連関、越境者の生存に必要なあらたな宗教圏の創出について共同性と共生の観点から解明することを全体構想とする。具体的には、越境者がホスト社会においていかなる有機的連携によって宗教的民族的な共同体を維持・展開しているのか、宗教がローカルなコミュニティに果たす役割、異なる宗教間の接触に伴う相互の受容や共生関係、それを通じて紡ぎだされるトランスナショナルな地域空間の生成の動態を解明する。さらに越境者への理解を通じて、既存の国家制度の改善、革新について何が貢献できるのかについても検証し、実践的共生社会にむけた学術的視座を提示する。

3. 研究の方法

本研究が対象では、2つの調査対象を設定している。一つは、これまで研究を行ってきた19世紀末から20世紀半ばまでの間に、中国雲南省からミャンマーをへて、主としてタイ、台湾に離散した中国系ディアスポラである。もう一つは、中国系ディアスポラのうち、申請者が暮らす日本に住むキリスト教徒である。前者に比べ後者については依然として研究蓄積は十分でない。本研究では、移民・宗教研究、人権・社会保障、地域間比較の3つの視点から、中国系ディアスポラの宗教圏の生成と多元的共生関係についてフィールドワークと文献調査をもとに比較研究を行う。とりわけ、(1)宗教施設（モスクや教会）の分布、設立年、設立の経緯、(2)イスラーム、キリスト教による宗教コミュニティの形成のプロセス、(3)宗教指導者のライフヒストリーと指導的役割、(4)国境を越えた信徒の宗教実践とネットワークなどについて明らかにすることで、宗教によるコミュニティの生成の差異と共通点を浮き彫りにできると考えた。

4. 研究成果

上記研究に関する成果は、国内外の研究会や学会において口頭発表を行い、また現在論文として執筆中である。そのうち、すでに成果が出版された日本における華人キリスト教徒コミュニティから得られた知見を以下にまとめ、最後に宗教間の比較にむけた課題と展望を示す。

- (1) クリスチャン・ディアスポラに関する研究において、民族の離散はかならずしも、コミュニティの周縁性を一義的に規定するのではなく、ディアスポラの人々がつもつ自律性、宗教の役割を神学的に理解する立場、あるいは、国境をまたいで信仰と民族の交差として立ち現れるネットワークの動態等についての社会的民族的理解が進んできた。そこで問われているのは、ディアスポラを生きる人々とキリスト教をめぐる信仰の動態は、人々をとりまく政治的経済的多民族との民族間関係のなかでたえず生成・規定され、世界宗教であるキリスト教はたえず、ローカルに文脈化されて受容され、時に読み替えられていく点である。
- (2) 本研究が対象としたのは、日本にすむ華人キリスト教徒である。日本のキリスト教徒が全

人口の1%前後にしか満たないというマイノリティ状況のなかで、中国や台湾に出自をもついわゆる華人クリスチャンにはどのような宣教の種がまかれたのだろうか。また人々は民族性や周縁性といった課題にどのように対応しつつ、異国において信仰の宗教的な共同性を維持し、信仰を継承してきたのだろうか。こうした問いにもとづいて神戸を対象におこなった調査からつぎのような結論がえられた。

- (3) 調査地は、1949年以後に創設された神戸の華人教会である。調査を通して、外国人宣教師との関わり、教会の制度化とその葛藤をへて現在に至るまでの展開と信徒の受洗の動きについてまとめた。その特徴は、米国のミSSIONナリーによって萌芽的に形成された教会がしだいに、「わたしたち」の教会として、台湾や中国を出自とする華人たちによって支えられ、主体性と民族性を失わずに歩みだした姿にある。米国MISSIONから独立して以後は、創設以来から続いている台湾の長老教会とのつながりが重視され、そのネットワークが維持されている点に特色がある。しかしながら、初代の台湾系牧師が引退してからは、長期的に教会をリードしていく牧師が不在であり、その牧師を持続的に養成することの難しさに直面している。MISSIONから独立することによる華人による独自性の強化というメリットをもつ反面、専任牧師が一時的に不在のため、牧師のリーダーシップという点ではやや脆弱性を持つ。
- (4) また、神戸の華人教会の特筆すべき点は、台湾系華人と中国大陸系華人の信徒が、それぞれの文化的政治的歴史的立場を超えて、キリストの名のもとに、あらたな信仰共同体を形成している点である。とくに台湾系の初代牧師をへてその後、同じ華人教会で育った大陸出身の牧師が輩出された点は、華人教会の自律性という点のみならず、多様な出自をもつ華人が教会を軸にあたらたにコミュニティを生成しつつあることを示している。

上記の日本における華人キリスト教徒のコミュニティの形成過程は、他者との関係性において宗教の果たす役割を示している。また、ディアスポラに生きる人びとが、民族性や周縁性といった課題にどのように対応しつつ、異国で宗教的な共同性を維持し、信仰を継承してきたのかについて示している。今後は、これらの点を参照し、現在成果を執筆中のタイに生きる中国系ムスリムのコミュニティと比較することを通して、宗教によるコミュニティの生成の差異と共通点を浮き彫りにしていくことを目指していく。

<引用文献>王柳蘭「ディアスポラ・コミュニティの再構築と信仰の継承—神戸華人とクリスチャン」『辺境コミュニティの維持—島嶼、農村、高地のコミュニティを支える「つながり」』本村真編著、ボーダーインク、2020、pp. 145—176。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 王柳蘭	4. 巻 0
2. 論文標題 ディアスポラ・コミュニティの再構築と信仰の継承 神戸華人とクリスチャン	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『辺境コミュニティの維持 島嶼、農村、高地のコミュニティを支える「つながり」』本村真編著、ポーターインク	6. 最初と最後の頁 145-176
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 王柳蘭
2. 発表標題 「離散中国ムスリム・パンロン人のマイクロヒストリーにみる越境と自画像の模索」分科会「インビジブルとビジブルな越境をよみとくーアジア・アフリカにおけるマイクロヒストリーの視点から」（王柳蘭代表）
3. 学会等名 日本文化人類学会第53回研究大会、東北大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Liulan WANG-KANDA
2. 発表標題 Border-crossing, Belonging, and Family networks among the Chinese Muslim Diaspora in Northern Thailand
3. 学会等名 International workshop on Chinese Muslims entitled "Redrawing and Straddling Borders: Chinese Muslims in Transnational Fields and Multilingual Literatures." (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Liulan WANG-KANDA
2. 発表標題 Border-crossing and belongs: Narratives and family experiences among Chinese Muslim Diaspora in Thailand
3. 学会等名 "Migration and East Asian Societies: Comparative Perspectives", The Max Weber Foundation and Hong Kong Baptist University, German Institute for Japanese Studies of the Max Weber Foundation, Tokyo
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Liulan WANG-KANDA
2. 発表標題 Shaping a “New Home” as Chinese Christian in Kobe
3. 学会等名 The 11th International Society for the Study of Chinese Overseas (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Liulan WANG-KANDA
2. 発表標題 Research on Chinese Muslim Communities in Northern Thailand (in Thai)
3. 学会等名 Mae Fah Luang University, Chiangrai, Thailand
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 王柳蘭
2. 発表標題 神戸華人社会におけるキリスト受容の葛藤と展開
3. 学会等名 日本文化人類学会第51回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 王柳蘭
2. 発表標題 自己を語り、故郷をつなぐ 雲南系パンロン・ムスリム女性のライフヒストリーから
3. 学会等名 日本タイ学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Liulan WANG-KANDA
2. 発表標題 Migration and Christianity among Overseas Chinese in Kobe
3. 学会等名 International Institute for Okinawan Studies Joint Usage and Research Project 2016-2017 Community Maintenance of Islands and settlements in Periphery: Asian Dialogues for Comparative Studies
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 小山真紀他編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 166
3. 書名 生きづらさへの処方箋	

1. 著者名 華僑華人の事典編集委員会編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 593
3. 書名 華僑華人の事典（一部担当）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>移民・難民の表象分析と多様なアクターによる映像実践 アジア・アフリカにおける比較研究 http://riporipo.com/ipcr/ グローバルビレッジを撮る・観る・創る http://riporipo.com/doshisha-pbs/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------